

言うけれど「うちの娘が たまされちゃあいけん」 もてなされる。 若者は「そりゃあ馬糞

から坊さんが来られ「こ

被って寝ていた。

ないけど、おはぎを持っ 娘は「たいしたもんじゃ てきた」と重箱のものを 里帰りしたじゃ」と言う。 んなことを言う者は、松 じゃあ」と言うけれど、 の木に縛りあげたれ」と 家の者たちが怒って「そ らえたれえや」と言う。 れだけ言うじゃけえ、こ

昭和60年8月15日収録 家だった。 下女や下男もいる大きな 若者は「娘は狐じゃ。 馳走じゃなあ。よばれる 娘さんを奥の間に入れ、 じゃわ」と言う。そして

ん(明治40年生まれ)

大原寿美子さ 家へ入ったら、そこには

出す。家の者たちは「ご 下男2、3人で若者を松 を木から降ろしてやっ われることなので、若者 家の者たちも坊さんの言

や」と言うと、若者のお

母さんが「もどって寝と

れんと上手にもどったか

来て「どんなや、だまさ

ちが数人その家にやって

すると、仲間の青年た

た。苦しくてならないの の木に逆さまに縛りあげ で騒いでいたら、家の奥 坊さんは「おまえはこ

え、一緒に帰ろう」と若 らえてもろうたじゃけ たからと頭を出した。 にならにゃ」と言われた。 子になれ」、次には「坊主 た。「これからわしの弟 若者は命を助けてもらっ 者を連れてお寺へ帰られ るわ」と言うので、仲間 たちは「ほんなら行って れてしまったという話。 ゃくちゃに食いちぎられ みよう」と行って見たら、 て、頭から血が出ている。 若者は頭の毛を狐にめち そればっちり。 今回も若者が坊主にさ

るうち、なにしろとても ないけど、がまんして髪 剃刀を使うと痛くてなら 疲れきっているからよく の毛を剃ってもらってい

て語られている昔話であ けっこう各地で好まれ

る。読者もどこかで聴か れたことがあるのではな

昔話の「人と狐」の中に によると、この話は本格 かろうか。 関敬吾。日本昔話大成

けられている。 (元鳥取短期大学教授) 「剃刀狐」として位置づ (水曜日に掲載)

やっぱりだまされ坊主に

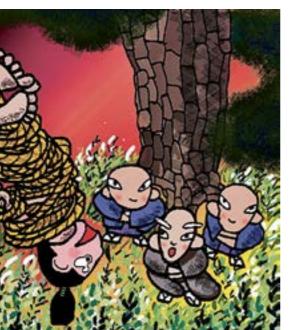
の一人が「狐を捕まえる

人をだます狐がおった。 若い者宿へ集った若者

昔。おさん狐といって

あらすじ

袋を持って出る」と出て



明けていて、「ここは何 眠ってしまった。 目が覚めてみれば夜が

じゃろう」と思ってよく 見れば、こりゃあ野原じ

なあと思ってわが家にも ゃ。だまされん言うて来 たけど、だまされたじゃ

どり、奥へ入って布団を

する。若者は見かねて、

つなった」と、娘を歓迎 なんだ。 子どもも大きゅ た。家の者が「久しう来

長者の家に入って行っ

を入れ、風呂敷に包んで 箱の中へ落ちていた馬糞 通って行った。

ついて行くと、娘は重

って娘になり青年の前を 狐は頭にアオミドロを被 ゃあせん」と見ていると、 た。若者は「だまされり 行ったら、おさん狐が来

狐

鳥取県立博物館HP「鳥取の民話」コーナーで語り手の音声が聴けます。